参考資料１

■人口ビジョン・総合戦略（改訂原案）の修正箇所

［人口ビジョン］

（４）千葉市の財政へ与える影響

①　人口減少に伴う税収減

市財政の影響については、歳入・歳出両面への影響が考えられるが、ここでは、地方税収のうち市の基幹税である個人市民税の推計を行った。

【個人市民税額の将来推計（図表 79）】

【推計方法】

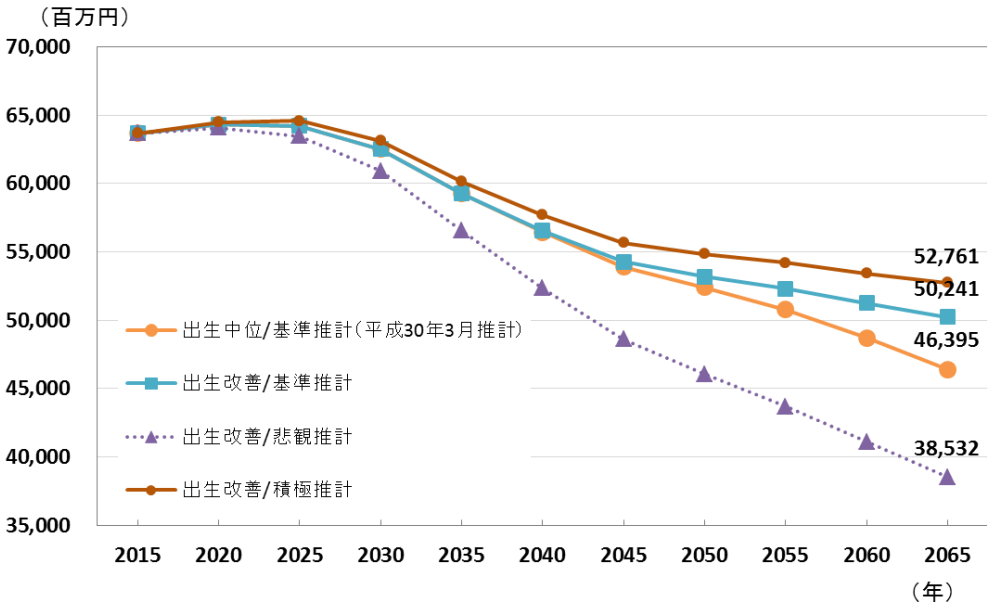
● 人口推計による男女別年齢階級別人口と、年齢階級別の納税義務者割合及び一人あたりの個人市民税額から、将来における個人市民税額を概算する。

【結果】

● 個人市民税額は出生改善/積極推計で最大となり、2065 年には約 527 億円。

● 最小は出生改善/悲観推計であり、約 385 億円まで落ち込む。

【図表　79】個人市民税額の概算［千葉市］



【注記】個人市民税額は、2017 年（平成 29 年）版「税務統計」を参考に推計

［総合戦略］

施策（１）企業立地の一層の促進と、競争力のある産業集積の形成

【 具体的な取組み 】

- 将来の成長が見込まれる分野として「千葉市臨海部の鉄鋼業等の産業集積を活用した成長ものづくり分野」、「幕張新都心を中心とする情報通信業の産業集積を活用した第４次産業革命分野」、「千葉食品コンビナートにおける食料品製造業等の産業集積を活用した食品関連産業分野」等を設定しており、これら分野における産業集積を強化するとともに、外資系企業の市内進出を促進する。
- さらなる税源の涵養や雇用の創出を図るため、引き続き、金融機関や不動産業者と連携して企業誘致を推進する。
- 新たな産業用地の確保に向けた検討を進めるほか、市内の各地域の特性や集積動向、現在の企業立地促進補助制度により立地した企業の状況や課題などを十分検証したうえで、今後進展が見込まれる産業や地域へ集中的に投資を行う。
- 立地した企業の定着に向け、企業の人材確保のため、大学からのインターンシップ受入れや雇用の促進等に力を入れていく。
- 将来的には、地域経済への波及効果をより一層高めるため、立地企業と市内中小企業との連携の促進を検討していく。
- ちばドローン実証ワンストップセンターにおいて、企業や研究機関等の事業者に対し、実証実験に必要な情報提供や相談、関係機関等との調整、フィールドの提供などを一元的に行い、ドローン利活用の早期本格化を図る。

【 第３次実施計画掲載事業 】

企業立地の促進（再掲）
地域経済の活性化や市民の雇用創出を図るため、企業の新規立地などに対して助成を行う。
産業用地の整備
地域経済の活性化や市民の雇用創出を図るため、ネクストコア千葉誉田における産業用地の周辺道路の交通調査を進めるとともに、新たな産業用地の確保に向けた検討を行う。

【 重要業績評価指標（KPI） 】

項　目　名	単位	実績値 2014 年度末	実績値 2017 年度末	目標値 2020 年度末
新規企業立地件数	件	81	163	220
新規立地企業の納税額	百万円	2,070	14,591	17,488
ドローンの実証実験※１支援数	件	―	1	19

※１　企業、大学、研究機関その他団体のドローンに関する技術開発や研究開発を目的とした実証実験

施策（４）MICE の誘致・観光プロモーションによる世界の観光需要の取り込み

【 具体的な取組み 】

- 主催者のニーズに合わせたアフターコンベンションなどの充実に向けた支援を行うとともに、新たなＭＩＣＥ誘致制度の創設を行うなど、「グローバルＭＩＣＥ都市」としての魅力の向上や国際的な誘致競争力の強化に取り組んでいく。
- 訪日外国人客を誘致するため、海外に向けたプロモーションや訪日外国人客を受け入れるための環境整備を進めていく。
- 観光先として選ばれるため集客イベントなどのコンテンツ作りの支援とともに、夜間の経済活動・文化活動の振興などの新たな観光資源の開発に取り組んでいく。
- 自然豊かな内陸部の地域活性化を図るため、効果的な観光プロモーションの実施や特区民泊の活用などにより、グリーンツーリズムを推進する。

【 第３次実施計画掲載事業 】

ＭＩＣＥの推進
ＭＩＣＥ誘致を推進するため、国際会議やコンベンション開催に助成するとともに、東京 2020 大会後に向けた、新たなＭＩＣＥ誘致制度を創設する。 また、地域経済の活性化や幕張新都心の賑わい創出のため、主催者のニーズに合わせたアフターコンベンションなどの充実に向けた支援を行う。
インバウンドの推進
訪日外国人客を誘致するため、海外に向けたプロモーションや訪日外国人客を受け入れるための環境整備を進める。
夜間の経済・文化活動の振興
夜間の経済活動・文化活動の振興を図るため、集客イベントなどのコンテンツづくりを支援するとともに、安定的な運用ができる体制づくりを行う。
グリーンツーリズムの推進（再掲）
市原市と連携し、エリアの魅力向上を図るため、両市に共通する地域資源である「緑」「里」「農」を活かした観光プロモーション活動を行う。
動物公園リスタート構想の推進
市民に身近な集客観光施設として動物公園の魅力を向上するため、チーター、ハイエナ、シマウマ、ヤマアラシ等の特徴ある動物展示や子どもの遊び場等を整備するとともに、教育支援プログラムの充実等を図る。

【 重要業績評価指標（KPI） 】

項　目　名	単位	実績値 2014 年度末	実績値 2017 年度末	目標値 2020 年度末
国際会議開催件数	件/年	28	63	65
観光入込客数	千人	22,537	25,345	26,500
外国人延べ宿泊客数	千人泊	210	575	1,000
特区民泊の施設数	箇所	―	1	5

施策（１）有形・無形の「レガシー」の、未来への承継

【 具体的な取組み 】

- 市民と宿泊者の交流につながる「おもてなし民泊（ホームステイ型）」や来訪者の多様なニーズに対応する「観光ガイドサービス」など、市民が保有する遊休資産やスキルを有効に活用したシェアリングエコノミーを導入し、世界各国からの来訪者が安心・快適に滞在できる環境を整備する。
- また、効果的な PR により本市の知名度を高めるとともに、市民によるおもてなしを充実させる。
- 市民がスポーツを身近に感じ親しむ機会でもあり、本市が会場となる競技の普及やスポーツ大会等での市民参加など、スポーツ文化の普及・発展を目指していく。
- 東京 2020 大会の開催をまちづくりの起爆剤として、国家戦略特区の活用や、官民あげての先駆的なまちづくりに積極的に取り組んでいく。
- 本市の国際的価値を向上させ、都市の賑わいのさらなる創出など、東京 2020 大会を開催したことが感じられるまちとなることを目指していく。

【 重要業績評価指標（KPI） 】

項　目　名	単位	実績値 2014 年度末	実績値 2017 年度末	目標値 2020 年度末
シェアリングエコノミーの利用者数				
ホームシェア利用者数	人	―	―	100
スキルシェア利用者数	人	―	―	100
国際交流ボランティア斡旋件数	件	573	710	780
スポーツ・レクリエーション活動の参加者数	千人	4,449	4,503	4,488
道路案内標識の英語表示修正	件	–	60	完了※1
スポーツを楽しめる機会があると感じる割合	%	–	調査前 （10 月下旬）	増を目指す

※1　2019 年度時点